

自然体験プログラムの開催および普及啓発

1. 自然体験プログラムの開催

1-1. 自然体験プログラムの実施

(1) 目的

大台ヶ原の自然環境を保全・再生を進めるために、知られざる大台ヶ原の魅力や楽しみ方を参加者に伝えると共に、自然再生の取組みの一環である閑散期利用の誘導や公共交通利用を呼びかけることを目的とする。

なお公共交通による来訪を参加条件として、受付通知はがきに奈良交通バスのスタンプを押印してもらったものを公共交通利用証明とした。

(2) 概要

①日時：

- ・大台ヶ原 秋の写真撮影講習会（東大台地区） 10月15日（日）11:30～15:30
- ・大台ヶ原 秋の写真撮影講習会（西大台地区） 10月22日（日）11:30～15:30
- ・自然観察会～大台ヶ原のほ乳類～ 10月29日（日）11:30～15:30

②参加人数（募集定員15名）：

- ・大台ヶ原 秋の写真撮影講習会（東大台地区）：3名
- ・大台ヶ原 秋の写真撮影講習会（西大台地区）：8名
- ・自然観察会～大台ヶ原のほ乳類～：15名（ハイキング3名）

(3) 今後の課題

写真撮影、ほ乳類など個別テーマを設定し、上限15名との設定で自然体験プログラムを提供したが、参加者には概ね好評であった。今後は利用者の意向を把握するとともに、情報提供・発信の方法やより質の高い自然体験を提供できるような、宿泊型、冬期利用型なども含めた幅広いメニューを検討していく必要がある。

1-2. アクティブ・レンジャーによる自然観察会

(1) 目的

利用の少ない平日に、アクティブ・レンジャーによる自然観察会を開催することにより、閑散期への利用誘導を図ること。

(2) 実施概要

①日時：

大台ヶ原ドライブウェイ（県道大台ヶ原川上線）開通時の5月～10月のほぼ毎週水曜日
午前：10:30～12:00、午後：13:30～15:00

②参加者総数：63人（各回平均1.9人）

（参考：平成17年度参加者総数150人、各回平均8名程度）

表1 アクティブ・レンジャーによる自然観察会参加者数

	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	7/5	7/12	8/2	8/23	8/30	9/6	9/13	9/20	10/4	10/11	10/18
午前	1	8	2	4	2	0	2	4	0	8	4	0	2	4	6	0
午後	2	1	6	6	2	3	0	3	0	2	0	0	0	4	2	0
計	3	9	8	10	4	3	2	7	0	10	4	0	2	8	8	0

(3) アンケート結果 (参加者総人数63名中57名に実施)

- ・観察会の満足度は「とても楽しい」が49%、楽しいが49%と参加者の満足度は高い
- ・観察会のわかりやすさについては、「わかりやすい」が78%と大半が内容を理解していることが伺える
- ・自然観察会開催の情報は「当日アナウンス」が54%と最も多く、「ビジターセンター」が25%、「ホームページ」が7%と続き、情報発信の必要性が伺える

(4) 今後の課題

参加者数が昨年度から大幅に減少しているため、周知方法等について検討が必要である。

2. 普及啓発

大台ヶ原自然再生整備事業に対する国民の普及啓発を目的として、インターネットの大台ヶ原自然再生ホームページ（<http://www.odaigahara.net/>、以下大台ネット）などによる情報提供・情報発信を行った。

2-1. 大台ヶ原自然再生ホームページ等

(1) 大台ヶ原自然再生ホームページの充実

大台ヶ原再生ホームページでは、各種委員会情報や自然体験プログラムなどの各種イベント情報の随時更新に加え、ホームページ開設（2004年3月）より2年が経過し、当初掲載された各種データについても、最新情報との整合を確認し更新を行った。

1) 『快適 電車・バスを使って大台ヶ原へ!』（公共交通利用促進キャンペーン）の新設

秋の観光シーズンにおける公共交通利用促進キャンペーンと連動した特設コンテンツを展開し、マイカーの利用自粛、公共交通利用の促進のための利用者への的確かつ効果的な情報提供を行った。

また、トップページのトピックにおいて10月8日～11月5日の毎週末を中心に大台ヶ原山上駐車場の満車・空車情報のリアルタイム掲載を行い、利用者への事前周知、混雑緩和を促した。

コンテンツは、秋の観光シーズン～大台ヶ原ドライブウェイ開通期間までを中心に平成18年10月5日～11月30日までの期間限定の開設とした。

2) 『自然再生への取組み』の充実

既設コンテンツ「自然再生への取組み」において、現在進められている『西大台地区利用調整地区の指定の検討』の紹介コンテンツを新設し、利用調整地区の制度や西大台地区についての関心や理解を深めるよう利用者への周知を図った。

3) 既設コンテンツの更新・充実

委員会情報や各種イベント情報、また奈良交通バスダイヤ改正情報などの随時更新に加え、ホームページ開設（2004年3月）より2年が経過し、当初掲載された各種データについても、最新情報との整合を確認し更新を行った。

表2 既設コンテンツの更新内容

カテゴリ		更新項目
各種委員会報告		・会議議事録及び会議資料の掲載（PDF形式）
データ集		・利用者数の推移 「年間利用者数」「月別利用者数」 ・気象データ 「月間降水量」
大台ヶ原の楽しみ方	自然体験プログラム	・2006年度 自然体験プログラムカレンダー 「アクティブレンジャーと大台ヶ原自然体験」
	大台ヶ原へのアクセス	・2006年秋の大台ヶ原 混雑予想カレンダー ・奈良交通バス時刻表 ・近鉄主要駅からの乗り継ぎ時刻表（PDF形式）
大台ヶ原通信		・メールマガジンバックナンバー

4) ホームページのアクセス状況

(ア) PC用サイトのアクセス状況

平成17年8月～平成18年12月の17ヶ月間におけるPC用サイトの総訪問者数[※]は26,226人、また総訪問数[※]は33,842回、閲覧ページ総数156,997ページであった。平成18年の推移を月別にみると、訪問者数、訪問数、閲覧ページ数ともに10月が最も高い値となっており、ついで8月、5月と観光シーズンに合わせてアクセスが多くなっていることが分かる。

また、平成17年と平成18年を比較すると、平成18年は前年比236%と増加しており、ホームページによる大台ヶ原情報の収集行動が広く浸透しつつあるといえる。

※訪問者数と訪問数

訪問者数はサイトを訪れたユーザーをIPアドレス等によって判別し、再度サイトを訪れた際には同じユーザーとしてカウントした値。訪問数はサイトを訪れたユーザーの延べ人数。例えば、1人のユーザーが同サイトに2回/日のアクセスを行った場合、訪問者数=1、訪問数=2となる

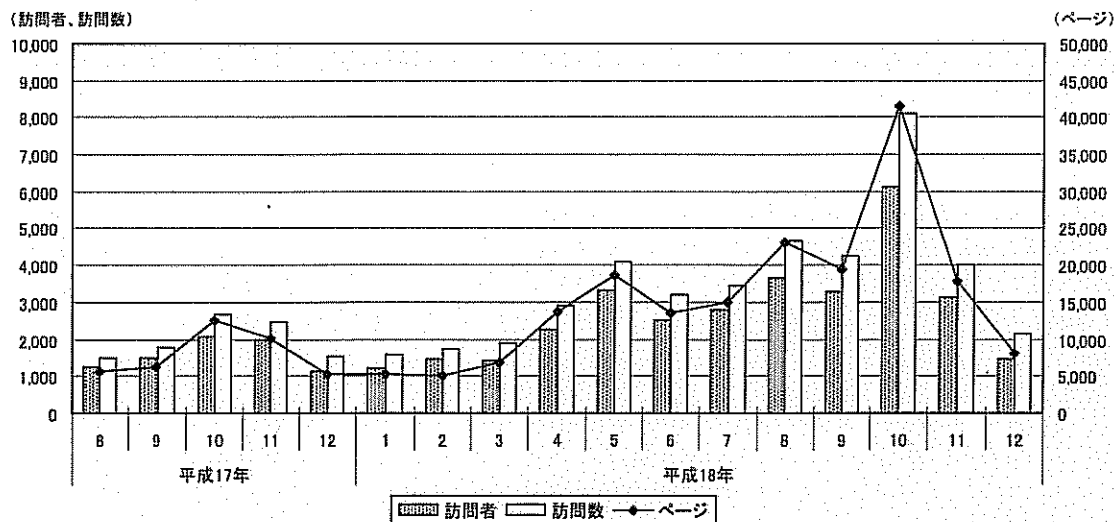


図1 月別訪問者数、訪問数、閲覧ページ数

(イ) モバイルサイトのアクセス状況

平成17年8月～平成18年12月の17ヶ月間におけるモバイルサイトの総訪問者数[※]は810人、また総訪問数[※]は2,566回、閲覧ページ総数3,904ページであった。

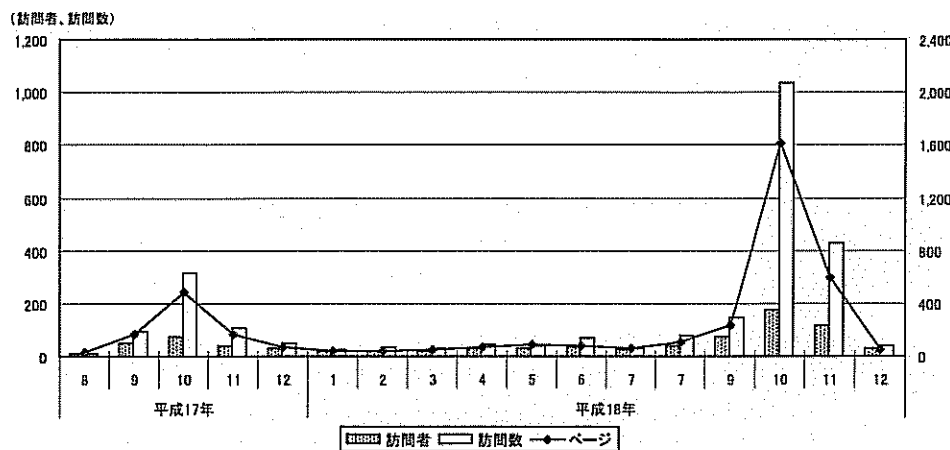


図2 月別訪問者数、訪問数、閲覧ページ数（モバイルサイト）

コンテンツカテゴリ別のアクセス数をみると、平成17年、18年共に山上駐車場満車・空車情報のリアルタイム配信を行った「トップページ」および「大台ヶ原へのアクセス」の10～11月のアクセス数が突出している。大台ヶ原への来訪の途中で行き方を調べる、また駐車場の状況を調べるといった、特定の行動に限定した当サイトの利用がなされていると考えられる。

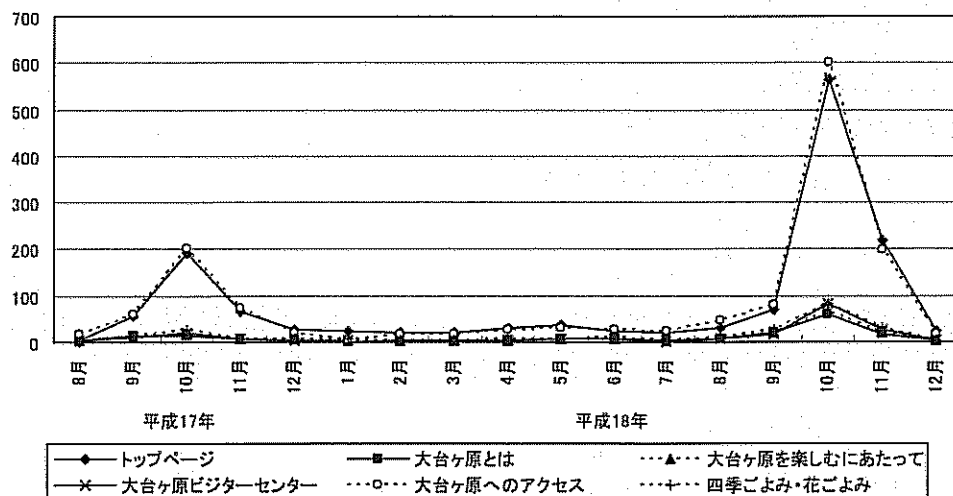


図3 月別カテゴリ別アクセス数（モバイルサイト）（ページ）

（2）大台ヶ原通信（メールマガジン）の発行

大台ヶ原の自然や自然再生の取組みに関する理解を深めると同時に、大台ヶ原に対する親しみや愛着を醸成し、より質の高い利用を促進するための周知活動として、大台ヶ原メールマガジンの配信を実施した。

1) 登録者数

メールマガジンの登録者数は平成19年1月現在で219と、創刊号配信時（平成17年9月）の登録者数25、また平成18年1月時点での登録者数82と比較して順調な伸びを示している。

2) 配信状況

本年度のメールマガジン配信は、季刊として夏号を平成18年8月1日（第3号）、秋号を平成18年9月19日（第4号）及び平成18年10月20日（第5号）をそれぞれ配信した。内容として、イベント情報、自然再生への取組み状況、混雑期における公共交通利用・混雑日回避の呼びかけの他、閑散期における利用の呼びかけを掲載した。

また、季刊で対応できないイベント情報として、山上駐車場情報のリアルタイム配信について平成18年10月臨時号として配信を行った。

各号の配信数は、時系列でみると第3号149部、第4号165部、臨時号171部、第5号200部と順調な増加となっている。

(3) ホームページ等に関する取組み課題

1) PC用サイトの利用者拡大・維持

(ア) 人気コンテンツの内容充実

ホームページのアクセス数は順調に増加しており、今後は人気コンテンツを核とした内容充実を図ることにより、利用者の大台ヶ原への理解を深めることが、他コンテンツへの誘導を促し、普及啓発の推進につながると考えられる。

(イ) 情報の集約、発信力の強化

観光シーズンに特にアクセスが集中するなど、利用者は来訪のための事前情報収集の手段としてホームページを利用する傾向が見られる。利用者の維持（リピーター確保）のためには、利用者の要求に応じた適正な情報配信が必要であり、情報の「即時性」「内容の分かり易さ」「アクセスの容易さ」について当サイトの構成、提供情報の内容を含めた再検討が必要である。

また、情報の即時性確保のため、情報の提供元となる各関係機関との適正な連携体制の構築が求められる。

2) モバイルサイトの利用者拡大に向けた取組み

(ア) サイト利用目的に合わせたコンテンツの充実

モバイルサイトは現状、来訪のためのアクセス情報の取得といった特定の利用にのみ集中している。モバイルサイトは、大台への来訪道中にサイトにアクセスする機会がほとんどであり、サイト利用者拡大に向けては、「大台ヶ原へのアクセス方法」や「駐車場情報」だけでなく、「開花情報」「天候（日の出）情報」など、利用目的にあわせたコンテンツの充実が求められる。

(イ) サイトと連携した現地イベント等の実施

モバイルサイトの積極的活用方法として、例えば、モバイルサイトでダウンロードした画像を現地係員に提示することにより、各種サービス（参加証として、割引・優待等）を受けることができるなど、現地イベントとの新たな連携方策が考えられる。現地イベント活性化のためのツールとして、モバイルサイトの活用は有効である。

3) メールマガジン定期配信の維持・拡充

創刊号の配信以降、登録者は順調に増えており、定期的な配信を継続することが登録の拡大につながると考えられる。登録者の拡大・維持を図るため、今後もメールマガジンの定期配信を継続することが求められる。

(ア) 独自情報の収集・提供

イベント情報等の先行的配信や、現地スタッフによる大台ヶ原の魅力紹介記事など、独自情報提供の展開によるメールマガジン情報価値を高めることが、メールマガジン登録者の拡大・維持に必要である。

(イ) 関係機関の連携強化

上記、定期配信の維持、独自情報の収集・提供に向けては、国、県、村をはじめ現地スタッフやボランティアといった、情報提供のための各関係機関の連携強化重要であり、配信のための体制づくりが求められる。

2-2. ビジターセンター展示物および周回線歩道自然解説標識等

大台ヶ原自然再生推進計画の内容および自然再生に向けた取組みを紹介し、利用者への普及啓発を図るため、ビジターセンター展示および周回線歩道の自然解説標識の改修を行った。

なおそれぞれの内容については、平成 17 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会（ビジターセンター展示・解説標識検討WG）で検討した。

(1) ビジターセンター展示の改修

改修内容は以下の通りである。

① 既存展示物の更新

- ・映像展示の改編等

② 新規展示物の整備

モニター映像等により、大台ヶ原の豊かな自然（過去）、衰退の状況（現在）、自然再生により目指すべき姿（未来）について、分かりやすくイメージしてもらうことに重点を置いた。



図 4 新規展示イメージ

(2) 周回線歩道自然界説標識の改修

大台ヶ原地区サイン計画懇話会」の検討内容等を踏まえて、自然再生事業の流れを伝えること、具体的な場所を活かして解説を行うことを基本とした。

改修の対象は、全体の解説標識について内容を確認した上、更新が必要なものと及び老朽化したものを選定した。

	タイトル	内容
No. 1	大台ヶ原のご紹介	・大台ヶ原の地形・気候・自然の概要について
No. 2	大台ヶ原の現状 ～森の衰退～	・大台ヶ原の森林衰退について
No. 3	苔むす森を再び -100年先を見すえて-	・自然再生推進計画の概要について
No. 4	自然に配慮した歩道です	・定められたルートを歩くことについての注意喚起 ・自然に配慮した歩道について
No. 5	シカの影響がわかります	・植物に対するシカの影響について
No. 6	昔はこのような森でした	・森林衰退以前の姿(1963年の写真)について ・森林衰退の原因について
No. 7	比べてみて下さい	・昔(1969年)と現在との植生の比較
No. 8	ツクシシャクナゲ	・ツクシシャクナゲについての解説
No. 9	小さな働き者・分解者たち	・フンや落ち葉等を分解する昆虫や土壌動物の働きについて

表3 解説標識一覧(新規設置分)

(3) 動植物に関する教材資料の作成

昨年度に引き続き、ビジターセンターでの閲覧用および自然観察会等で使用できる「大台ヶ原動植物教材資料」の作成について検討した。

今年度は、昆虫類を対象とした。

内容については、一般の人が分かりやすい構成とすること、園路沿いでみられる種や大台ヶ原らしい種を紹介するとともに、コラム等の掲載を検討している。



図5 教材資料(昆虫類)イメージ